

災害対応における状況認識の統一を目指した情報様式の整備
Systematic Utilization of Forms
for the Establishment of Common Operational Pictures in Emergency Response

○田口尋子・林春男

○Hiroko Taguchi, Haruo Hayashi

During disasters, emergency operations center should be provided the information which helps make management decisions. Accumulating cases contributes to the accuracy of both numerical totals and overall information. The present study proposed business management templates in order to collect and integrate the cases. The study adopted the process of both participatory workshops by municipal government employees and an emergency drill. Templates were developed in workshops and checked in the drill. Essential case items were clarified in the templates by utilizing forms. The templates provide the overall information concerning damage and response circumstances as well as comprehensible activity flows.

1. はじめに

情報共有は災害対応の円滑な遂行に欠かすことができない。災害対応のように、時間的に切迫した状況下、膨大な情報の処理が求められるとき、必要な情報をいかに収集し、集計・集約等の整理をおこない、それを発信していくか。この枠組みを明確にする必要がある。関連する研究として、鈴木(2009)や田口他(2010)が挙げられる。鈴木は、自治体の各部局は個別に情報収集・管理しており、個別的な更新が関係者間に共有されない問題を指摘した。他方、田口他は、災害対応における情報が組織ヒエラルキー構造の各階層で収集・整理・集約され、各種会議を通して共有されることを指摘している。そうした情報の土台となるのは個別の情報であり、正確な個別情報の収集・集積なくして、災害対応全体像の把握は実現されない。

2. 研究の目的

災害対応全体像の正確な把握に欠かすことのできない個別情報の解明と、対応記録としての個別情報を蓄積する災害対応業務管理テンプレートの作成手法を提案する。

3. 研究方法

(1) 分析対象

本研究は、奈良県橿原市を対象とした事例研究

である。橿原市は防災・減災対策に積極的に取り組んでおり、2008年度から現在に至るまでに、地域防災計画の改訂・見直しと防災対応マニュアルの整備に続いて、災害対策本部会議資料である「とりまとめ報」および各部局のとりまとめ様式の整備が行われてきた。

(2) 分析手続き

本研究は、これまでの橿原市における取り組みの中で整備された「とりまとめ報」の情報を獲得するために、必要となる個別情報を収集・集積する枠組みを明らかにするものである。手続きとして、職員参画型ワークショップを通して災害対応業務管理テンプレートを作成し、図上訓練によるテンプレートの分析・検証を実施した。

4. 研究の結果・考察

災害対策本部が把握・共有すべき情報は、意思決定・判断に必要となる重要項目である。本研究が提案する業務管理テンプレートでは、情報様式の充実を図り、災害対応における重要項目を解明することによって、被害や対応の概況の把握と、一連の業務の流れの理解が可能になった。また、重要項目が明確になることによって、業務遂行に必要な様式や一覧が未整備であることを指摘し、それらの項目の定義に至った。このような情報様式の整理と充実は、現場での効率的な作業の遂行に資するものである。